

洋14-165 (ショートコメント)

「愛の棘」 ☆☆

2014 (平成26) 年12月7日鑑賞

テアトル梅田>

監督：キム・テギョン

ジュンギ (体育教師) / チャン・ヒョク

ヨンウン (女子高生) / チョ・ポア

ソヨン (ジュンギの妊娠中の妻) / ソン・ウソン

ミンジュ (ジュンギの同僚の教師) / イ・ドア

2014年・韓国映画・118分

配給/ファインフィルムズ

◆イケメンの体育教師ジュンギ (チャン・ヒョク) と、彼に恋心を抱き、冒頭の「飛び込み」シーンから、無茶をする？女子高生ヨンウン (チョ・ポア)。女子校ならどこにでもある風景だが、ヨンウン (チョ・ポア) の一方的な (盲目的かつ純真な?) 愛のアプローチに、ジュンギ (チャン・ヒョク) は心をときめかせながらも次第にたじたじ状態に……。

飛び込み台に水着姿ですっくと立つヨンウンは東宝屈指の美人女優、長澤まさみが『ラフ』 (06年) で魅せた水着姿のスタイルの良さには及ばない (『シネマルーム12』192頁参照) が、全編を通じて見せる、コケティッシュな美しさ、そして狂気と紙一重の純真さでは長澤まさみよりも上……? しかし、いかんせん男のバカさ加減が目立つとともに、ストーリーに緊張感がないから、時としてあくびが……。

◆雨の日の放課後。傘を忘れて濡れているヨンウンにジュンギが優しく傘を差し掛けてやると、その後は誰もが予想する展開に……。しかし、暗い教室の中で二人が抱き合っていた時、警備係の靴音が近づいてくると、緊張は頂点に……。

もっとも、ヨンウンの声を抑えるため、その口を手でふさいでいると、警備員が立ち去った後、ヨンウンは仮死状態に……? こりゃ、ヤバイ。しかし、そんなバカな……。

◆イケメンの夫が女子高の教師をしていれば、「間違い」が起こる可能性が高いはず、しかも、自分が妊娠中で、あの方面がおろそかになっていれば、そのリスクはなおさら……。妻のソヨン (ソン・ウソン) にそんなことが分からないはずはないと思うのだが、家庭教師をしてやるためにヨンウンを自宅に招き入れたり、一緒に食事をしたり、挙げ句の果ては家に泊めてやったり、その不用心さはあまりにひどい。さらに夫婦の寝室にヨンウンが忍び込み、ジュンギにモーションをかけるシーンをみていると、あまりのバカバカしさにやれやれ……。

◆女子高生とイケメン教師との「道ならぬ恋」にプラス「妊娠」というストーリーも良く登場するが、それだけでは面白くないので、実はそれは「想像妊娠」だったというヒネリもよくあるもの。しかし、ヨンウンがトイレで吐いている姿をソヨンが見て、「もしや……」と思ったところから、俄然スクリーン上は「妊娠」をテーマとしたサスペンス調のストーリー (?) に変わってくる。もっとも、ソヨンのお腹が膨らみ、いよいよ生まれそうなのは現実だから、ヨンウンとソヨンによる虚々実々の女の戦いの展開はいかに……?

◆ジュンギの同僚の女先生ミンジュ (イ・ドア) が、何かとジュンギとソヨン夫婦の世話をしたり、ジュンギとヨンウンの関係にアドバイスをしているのは「健気」だが、そのミンジュの首がヨンウンが持つカッターナイフによって斬られてしまうのは一体なぜ……?

さらに、いくらソヨンへの対抗心とはいえ、女子高生のヨンウンが産まれたばかりの赤ん坊を病院から連れ出すなんてことが簡単にできるのは一体なぜ……?

本作の原題は『Innocent Thing』、邦題は『愛の棘』だから、常軌を逸した女子高生の「愛の暴走」を描きたいのだろうが、こりゃいくら何でも……。

◆コトに失敗した (つまり、ジュンギとの愛が壊れたと実感した) ヨンウンは屋上から飛び降り自殺を図ったが、その一瞬にジュンギがヨンウンの腕をつかんで止めたのは立派。しかし、このままでは腕が離れるのは必至だ。ジュンギはソヨンに応援を頼んだが、さてソヨンは……。ジュンギの腕の力が続かなかったのは仕方ないから、ヨンウンが落下してしまったのも仕方がない。しかし、「仕方ない、仕方ない」とくり返すソヨンの気持ちの整理はそれで行くの……。成すべきことを成したジュンギは、この結末にある程度満足だろうが、さて、一見仲良く子供を育てているこの若夫婦の将来は……?

201

4 (平成26) 年12月9日記